

參考資料

参考資料 目次

周辺の公園に整備されている施設	48
第2章2の「(2)「活気ある個性的な公園」づくりを進める」関連資料	
海の森(仮称)における協働活動のイメージ(例)	50
第4章1の(2)の「1)役割分担の明確化」関連資料	
グループ連絡会の運営の基本的なルール(例)	53
第4章2の「(4)グループ連絡会の運営の基本的なルール」関連資料	
賛同を得ていくための視点	54
第4章4の「(1)賛同を得ていくための視点」関連資料	
賛同を得ていくための方策の体系	54
第4章4の「(2)賛同を得ていくための方策づくり」関連資料	
マスコミとのタイアップ〔提携〕(例)	55
第4章4の(2)の1)の「PR活動の推進」関連資料	
海の森(仮称)の認知度を高めるイベント(例)	55
第4章4の(2)の2)の「イベントの活用」関連資料	
「海の森(仮称)」構想 中間のまとめ に対する都民意見	56
「中央防波堤内側 海の森(仮称)」構想 諮問文	65
東京都港湾審議会委員名簿	68
東京都港湾審議会 海の森(仮称)検討部会委員名簿	69
「中央防波堤内側 海の森(仮称)」構想策定の審議経過	70

参考資料

第2章2の「(2)「活気ある個性的な公園」づくりを進める」関連資料

周辺の公園に整備されている施設



公園名	スポーツ施設の種類
大井ふ頭中央海浜公園	野球場、テニスコート、陸上競技場、多目的球技場など
お台場海浜公園	水域 (ボードセーリング)
有明テニスの森公園	テニスコート
辰巳の森海浜公園	ニュースポーツ、ラグビー練習場、国際水泳場
若洲海浜公園	ゴルフ場、ヨット
夢の島公園	陸上競技場、野球場

キャンプ場・バーベキュー場のある公園



▲ キャンプ場のある公園

城南島海浜公園、若洲海浜公園

▲ バーベキューのできる公園

大井ふ頭中央海浜公園、みなとが丘ふ頭公園、東海ふ頭公園、京浜島つばさ公園、眺ふ頭公園、潮風公園、晴海ふ頭公園、辰巳の森海浜公園、夢の島公園、新木場公園、葛西臨海公園、葛西海浜公園

第4章1の(2)の「1)役割分担の明確化」関連資料

海の森(仮称)における協働活動のイメージ(例)




海の森(仮称)の協働活動における活動メニュー、利用メニューは、次のようなものが想定される。

なお、協働活動は協働参加者の創意工夫や森の成長に伴って、より多様なメニューの展開が期待される。

(1) 森づくり活動などの展開



森づくりの過程におけるそれぞれの場面や水辺の自然環境再生の場面で、協働活動を企画し、運営、体験しながら進めていくことが望まれる。

森づくり活動など	概要	活動メニュー例
1) 土づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 剪定枝葉のリサイクルにより堆肥化し、植栽基盤用に利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園、道路からの剪定枝葉の受入れ、チップ化、堆肥生成
2) 苗木づくり・苗木育成 	<ul style="list-style-type: none"> ドングリ等を蒔いて発芽させ、苗木として育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 苗木づくりプロセスの研究 ドングリ拾い、挿し木による苗木づくり 苗木の育成、管理(灌水、施肥等)
3) 植樹 	<ul style="list-style-type: none"> 苗木を植える。(植樹祭) 	<ul style="list-style-type: none"> 森づくりプロセスの研究 植樹作業
4) 森の育成・管理 	<ul style="list-style-type: none"> 森として育つよう管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 下草刈、枝打ち、間伐などの管理
5) 森の活用・管理 	<ul style="list-style-type: none"> 管理を継続する。 自然環境を学ぶ場として活用する。 自然が享受できる場として活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 下草刈、枝打ち、間伐等の管理 環境学習イベント 自然が享受できるイベント 自然観察・炭焼き・クラフト教室・フィールドアスレチック・オリエンテーリング・野外生活体験等

森づくり活動など	概要	活動メニュー例
6) 淡水池や小川の植生づくり・管理・活用 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺の自然をつくり、育て、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺の生き物の観察会等 水生植物・水生動物・水辺の野鳥などの生息域の管理 サンクチュアリづくり 水辺の自然育成プロセスの研究
7) 海辺の管理・活用 	<ul style="list-style-type: none"> 海辺の自然を育て、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 海辺の生き物の観察会等 流木等漂流物拾い（流木クラフトなど） 海辺の自然育成プロセスの研究
8) 海域の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 航路であることを理解した上で、適切に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 海に親しむスポーツや水生生物観察などにかかわる体験・活動 いかだレース、レガッタ等のイベント

(2) 身近な施設づくり活動の展開

協働活動で簡易な木柵や樹木案内板などのものづくりを行い、製作したものの維持管理も行う。

身近な施設づくり活動	概要	活動メニュー例
1) ものづくり・維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 個々のものづくりを行う。 協働活動で製作したものの維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木案内板などの製作と設置と管理 丸太のベンチ、木柵の製作と設置と管理 花壇づくりと手入れ ペンキ塗り、損傷の補修、清掃
2) 水辺のものづくり・維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺・水域を活用したもののづくりを行う。 協働活動で製作したものの維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 水生植物・水生動物・水辺の野鳥のサンクチュアリづくりと維持管理 水生植物案内板などの製作と設置と管理

(3) 運営活動の展開

海の森（仮称）の利用の促進や協働活動の活性化など運営活動を展開することが望まれる。

運営活動	概要	活動メニュー例
<p>1) 公園の利用促進</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の森（仮称）の資源（豊かな森や水辺）を活用した活動プログラムの企画・運営を行う。 ・イベントの場として活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木観察など、森の資源を活用した活動 ・海に親しむスポーツの体験など、水辺や海域の資源を活用した活動 ・植樹祭、素朴な道具を使用する野外生活体験活動などのイベント ・コンサート、芸術祭等
<p>2) 環境学習の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の課外授業や社会人の生涯学習の一環として、環境学習の企画・運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象フィールドの整備（施設・活動説明板等の設置含む） ・教材（副読本等）の作成
<p>3) 公園ガイド活動</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の森（仮称）を案内し、普及啓発に努める。 ・海の森（仮称）ボランティアガイドの企画・運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内ボランティアの養成 ・案内ボランティア活動の実施 ・海の森（仮称）の成長過程（森の成長、公園工事など）の見学会の実施
<p>4) 普及・宣伝活動</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の森（仮称）に関する普及・宣伝活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の森（仮称）普及・宣伝活動 ・マスコミと連携した普及活動 ・ホームページの作成 ・パンフレットの作成 ・会報などの発行
<p>5) 協働活動の財源確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の森（仮称）づくりの活動を伝え、財源確保のためのイベントなどを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金など財源確保活動、イベントの実施

写真出典：東京都建設局「水元公園大自然塾講座企画運営委託報告書（平成14年度）」ほか

第4章2の「(4) グループ連絡会の運営の基本的なルール」関連資料

グループ連絡会の運営の基本的なルール(例)

ルール	概要	
実行グループの自律性を確保するルール	個々のアイデアを活かすルール	・参加者一人一人の自発的アイデアを活かし、途切れることなく吸い上げ、それらをつなぎ、具体的な活動へと編み上げていくためのしくみを組み込んでいく。
	情報を共有化するルール	・グループ連絡会の運営について、どこで何が決まったのかを、参加者全員が共有できるよう、情報を収集し、幅広い手段で伝えていく。 ・定例的な意見交換の場を設定する。
	活動の自律性を確保するルール	・各実行グループはそれぞれの活動方針、活動計画を企画立案する。 ・活動方針・計画は、代表者会において確認・調整を行い、必要に応じて実行グループ間の協力態勢を整える。 ・代表者会で確認・調整された活動計画に基づき、各実行グループが責任を持って自律的に活動する。
恒常的な活動への参加	ボランティア登録	・恒常的な協働活動への参加者は、グループ連絡会にボランティア登録する。 ・ボランティア活動では、個人報酬や交通費、飲食費等は支給しない。
	個人登録	・企業、NPO等の団体参加においても団体に所属する一人一人がボランティア登録する。
	実行グループへの参加	・ボランティアとして登録した参加者は、個々の活動の実施主体である実行グループに参加する。
	ボランティア保険への加入	・恒常的な活動への参加者はボランティア保険に加入する。 ・ボランティアは自己責任を原則とすることから、保険料は参加者自身が負担する。
公平性を確保した運営のルール	・実行グループ及び代表者会において、特定の個人、企業、団体により偏った運営が行われないよう役割を固定せず、持ち回りで分担する等交代のルールを定め、適切に運営していく。 ・なお、多彩な才能、能力の発揮を妨げないような配慮も必要である。	
実行グループの設立のルール	・同一分野の実行グループの林立や実行グループ内の分裂を防ぐため、予め設立の手順・ルール等を定めておく。	
会議運営・合意形成のルール	・公平な合意形成の下で参加者が活動を展開していくために、会議運営・合意形成のルールを予め設定しておく。	
記録の保存・公開	・活動の経過・成果は、適切に記録し、公開する。 ・会議における記録は、最終的な結果だけではなく、少数意見も併記し、結論に至る経緯や趣旨を明確に記録し、活用できる形で保存する。 ・活動の成果を評価するためにも、記録を保存する。活動参加者間で情報を共有し、次の活動に活かしていく。	
資金管理のルール	・信頼を得ていくために、活動資金は公平性を持って厳格に管理し、運営する。 ・海の森(仮称)協働活動においては、連絡会事務局が資金を一元的に管理するとともに、管理・運営内容を明確に記録、保存し、監査を受け、公表する。	
リスク管理のルール	・事故の発生等はボランティア自身、イベント参加者のみならず、活動組織や海の森(仮称)事業自体にも影響を与えかねないため、予め対応を設定しておく。 ・ボランティアの登録名簿の作成や出欠状況を把握しておく。 ・参加者の技術指導を行うとともに、リーダー研修等の人材育成により、事故等の発生を抑制していく。 ・安全の手引きを作成し、安全な作業方法や負傷時の対処方法、パニック防止の対処方法などを周知する。	

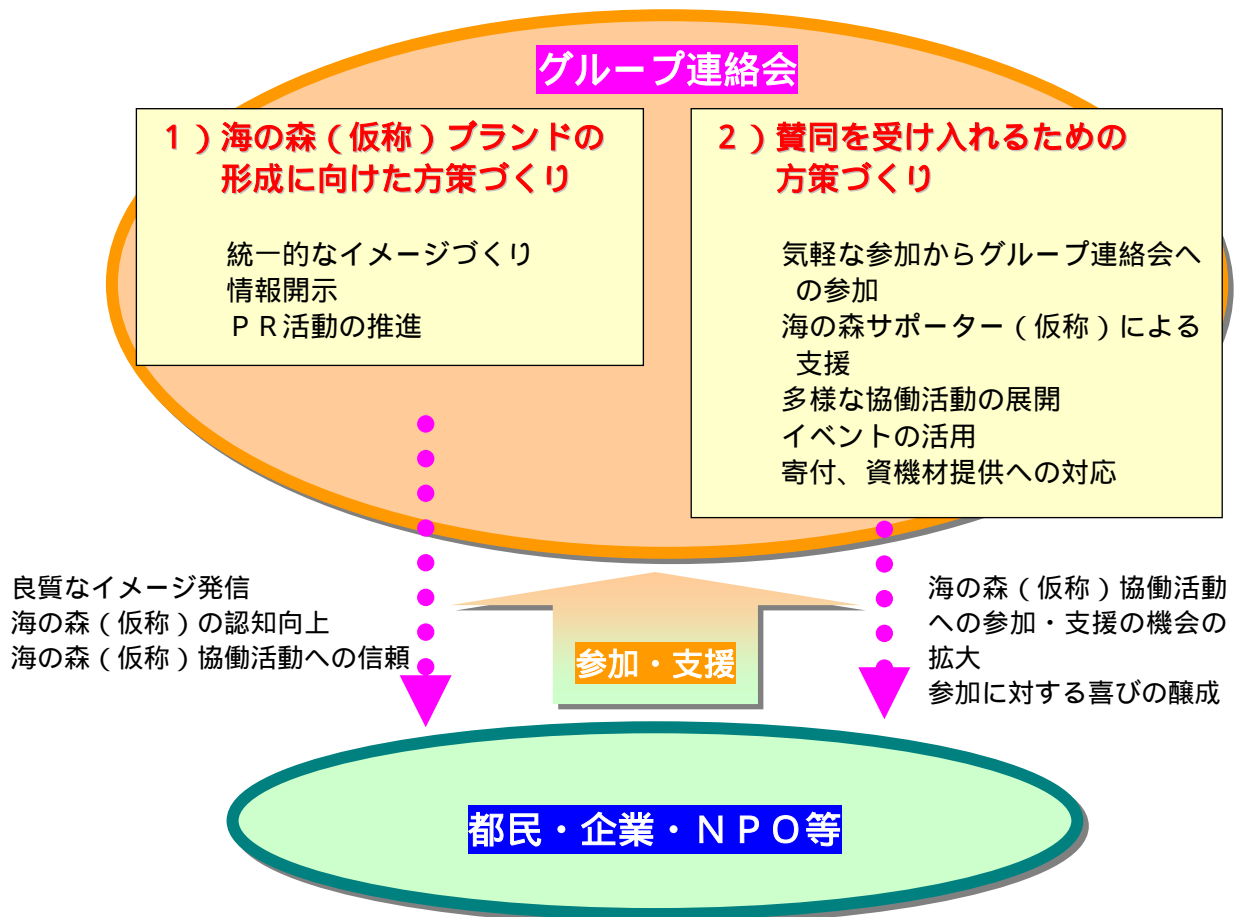
第4章4の「(1)賛同を得ていくための視点」関連資料

賛同を得ていくための視点

視点	内容
分かりやすいこと。	・海の森（仮称）協働活動の目的・夢・到達イメージ、成果・報告、参加・支援の体系などを分かりやすく提示することが重要である。
魅力を示すこと。	・緑を増やす活動を通じて、やりがい、愛着、充実感、達成感、参加した実感、連帯感などの内面的充足や参加・支援する側にとってのインセンティブを提示する。 ・スキルアップ、人的なつながりの拡大、社会貢献活動による社会的評価の獲得などのインセンティブを示す。 <small>インセンティブ：外側からの動機付け、優遇措置、誘因、見返り。ものごとに取り組む意欲を、報酬を期待させて外側から高める働き</small>
多様な選択肢があること。	・興味、意欲ある都民が、それぞれに応じたレベル・状況で参加・支援できるように、機会の拡大や多様な形態を用意することに留意する。
継続性・発展性があること。	・短期間の活動だけではなく、継続的な参加・支援につなげていくように留意する。
独自性があること。	・海の森（仮称）の独自性を参加のしくみや協働活動の内容に持ち続けるように留意する。
開かれていて、偏りがいいこと。	・社会に対して開かれていて、偏りがいい運営を基本とする。

第4章4の「(2)賛同を得ていくための方策づくり」関連資料

賛同を得ていくための方策の体系



第4章4の(2)の1)の「PR活動の推進」関連資料

マスコミとのタイアップ〔提携〕(例)

海の森(仮称)の森づくりに関するタイアップ

- ・苗木づくりキャンペーン(都民への呼びかけ)の実施
- ・植樹祭への著名人の参加によるドキュメンタリー番組・記事
- ・海の森(仮称)の苗木づくり、植樹祭、その後の維持管理までを追った長期取材型のドキュメンタリー番組・記事
- ・海の森(仮称)で活動するボランティアを主人公にしたドキュメンタリー番組・記事
など

自然・環境志向のイベントなどとのタイアップ

- ・自然環境再生プロセスや子どもの自然とのふれあいにかかわるドキュメンタリー番組・記事
- ・ガーデニングコンテスト
- ・エコカー展示・試乗会
- ・自転車ロードレース・MTBレース、クロスカントリーレース等のスポーツイベント
- ・環境に関心のあるアーティストを起用したチャリティーコンサート
など

映画・ドラマ撮影などとのタイアップ

- ・東京ロケーションボックスを通じた映画・ドラマ撮影等におけるロケ地としての受入れ・協力
- ・定点カメラの設置によるニュース・天気番組等の背景画像
など

第4章4の(2)の2)の「イベントの活用」関連資料

海の森(仮称)の認知度を高めるイベント(例)

著名音楽アーティストによるライブコンサート

- ・野外特設ステージを活用したライブコンサートの開催
- ・ポスターや各種メディアによる海の森(仮称)とのタイアップ広告によるPR
- ・参加アーティストの呼びかけによる海の森(仮称)協働活動のPR、寄付の呼びかけ
- ・協働活動への参加のきっかけづくりとして、コンサート終了後の寄付呼びかけ、チケット料金の一部を海の森(仮称)へ寄付

「海の森（仮称）」構想 中間のまとめ に対する都民意見

平成16年11月に「海の森（仮称）」構想 中間のまとめ を発表した後、都民の皆様から多数のご意見をいただきました。いただいたご意見は、極力、今回の答申に反映させていただきました。

ここでは、ご意見の概要を紹介します。

1 意見募集の概要

(1) 募集期間

平成16年11月26日から約1か月

(2) 募集の広報

- 1) 都民情報ルーム（東京都庁第一庁舎3階）
- 2) インターネット（東京都港湾局ホームページ）
- 3) 「広報東京都」12月1日号
- 4) eモニターへの意見募集（500名）

(3) 募集方法

- 1) ホームページ上における意見送信
- 2) 電子メール
- 3) ファックス
- 4) その他（電話による問合せ、要望書）
- 5) eモニター制度の意見募集システム

(4) 応募件数

- 1) ホームページ上における意見送信…………… 65件
- 2) 電子メール …………… 6件
- 3) ファックス …………… 11件
- 4) その他（電話による問合せ、要望書）…………… 11件
- 5) eモニター制度の意見募集システム…………… 156件

2 寄せられた意見の概要

【一般公募意見】

(1) 構想全般について（計 37 件）

《賛同する意見》（計 29 件）

- ・ 非常に良い構想だと思う。（19件）
- ・ すばらしい公園ができることを期待したい。（6件）
- ・ 自然とのふれあい・体験の場をつくる意義は大きい。（4件）

《否定的な意見》（計 3 件）

- ・ 自然環境の再生なら埋立地を海に戻すのが筋、森をつくるのであれば陸域でつくるべきである。（1件）
- ・ 長い年月をかけて公園にするのであれば自然に任せれば良い。（1件）
- ・ いたずらな開発で税金を使って欲しくない。（1件）

《構想の内容について》（計 5 件）

- ・ 参加者の心を引きつけていく強い言葉が必要である。（1件）
- ・ この森にこめられた心はなにかを明確にすべきである。（1件）

（次頁に続く）

(前頁の続き)

- ・ タイトルの「リサイクル」を「持続可能な公園づくり」とすべきである。(1件)
- ・ 目的を追求する具体的な内容の記述に欠けている。(1件)
- ・ 各段階の具体的な実施スケジュールを公表し、参加意欲のある都民の意識を高めると良い。(1件)

(2) 整備内容について(計 103 件)

《森のイメージについて》(計 22 件)

- ・ 季節感を楽しめる森があると良い。(4件)
- ・ 生き物の集まる、生態系豊かな森があると良い。(4件)
- ・ できるだけ人手をかけずに、自然にまかせた森とすべきである。(4件)
- ・ 海風の影響を考え、土地に合った樹種構成を考えるべきである。(2件)
- ・ 個人で不要になった樹木を活用したら良い。(1件)
- ・ 公共で不要になった樹木を活用したら良い。(1件)
- ・ 日本の風土にあった懐かしさを感じる森をつくると良い。(1件)
- ・ 五大大陸から樹種を選定し、世界の森をつくると良い。(1件)
- ・ 愛知万博の森のイメージを参考にしているかどうか。(1件)
- ・ 一部をマングローブ林とすることもできるのではないかと。(1件)
- ・ 様々なタイプの森・林をつくると良い。(1件)
- ・ 土壌改良にもお金をかけずに作るべきである。(1件)

《整備して欲しい施設・場所》(計 51 件)

- ・ 海釣りのできる施設を整備すると良い。(6件)
- ・ 障害者の乗馬療法として乗馬のできる施設があると良い。(5件)
- ・ 緑を主体として必要最低限の施設だけで良い。(3件)
- ・ 墓地として活用してはどうか。(3件)
- ・ 干潟や渚など、海辺の自然を再生すると良い。(2件)
- ・ 散歩・ウォーキングやサイクリングなどの園路を充実して欲しい。(2件)
- ・ 学術交流や特殊環境帯の植物園があると良い。(2件)
- ・ 価値の高い古建築の移築・活用を図ると良い(港湾労働者第二宿泊所(第五寮))。(2件)
- ・ 東京湾の自然豊かな時代を示す歴史的テーマパークとして整備してはどうか。(2件)
- ・ 神社や社を配置してはどうか。(2件)
- ・ 自然観察ができる池があると良い。(1件)
- ・ 自然体験を重視し、球技などのスポーツ施設をあまり作らない方が良い。(1件)
- ・ 他の公園では出来ない施設やプログラムがあるような公園となると良い。(1件)
- ・ カミソリ護岸ではなく海辺に親しめるよう整備すると良い。(1件)
- ・ 海をマリンスポーツ等の利用に開放して欲しい。(1件)
- ・ 森自体がランドマークであり、作為的なランドマークは不要である。(1件)
- ・ 自然を豊かに感じられるような場であって欲しい。(1件)
- ・ キャンプ場があると良い。(1件)
- ・ 海外などの例を参考に、今までの日本にはないような公園にする。(1件)
- ・ ベットとの共生も考えて欲しい。(1件)
- ・ 酪農体験施設があると良い。(1件)
- ・ オレンジの島など果物の島を作ってはどうか。(1件)
- ・ 清潔で明るいトイレを設置してもらいたい。(1件)
- ・ 施設利用は予約制としないで欲しい。(1件)
- ・ 憩いの場とするためには店舗(喫茶店、レンタサイクル)などのサービス施設を充実すべきである。(1件)
- ・ 危険な箇所以外の園内は、自由に歩けるようにしてはどうか。(1件)
- ・ 環境学習などに使える宿泊施設があると良い。(1件)
- ・ 安価な宿泊施設を整備し、冬期はホームレスのための自立支援施設として利用する。(1件)
- ・ 自然の中でケアできる医療施設を建設してはどうか。(1件)
- ・ 東京のシンボルとなるような拠点的な施設(シドニーのオペラハウスのような)を建設して、ランドマークとしてはどうか。(1件)
- ・ 東京のシンボルとなるような拠点的な施設(第2東京タワー)を建設して、ランドマークとしてはどうか。(1件)
- ・ アイススケート場があると良い。(1件)

《整備する上で配慮してもらいたいこと》(計 23 件)

- ・ 障害を持つ人々や高齢者・子供の利用に配慮が必要である。(5件)
- ・ 風力発電や地中ごみから出るメタンガスなどの有効利用を考えるべきである。(3件)
- ・ あまりうっそうとさせず、明るく開放的な公園とする方が良い。(2件)
- ・ 余計な施設にコストをかけずに公園を作るべきである。(2件)
- ・ 震災対策が必要である。(1件)
- ・ 海の森で使用するものの全てを海の森から発生するもので賄う。(1件)
- ・ 埋立ごみに対する安全性の確保に十分配慮すべきである。(1件)
- ・ 生ごみ等で作った肥料を入れる。(1件)
- ・ 乗馬施設を導入し、土壌改良に馬糞を肥料として活用する。(1件)
- ・ 夜も明るく、安心していられるような公園にして欲しい。(1件)

(次頁に続く)

(前頁の続き)

- ・ 見苦しい電柱・電線類の乱立は避けるべきである。(1件)
- ・ 施設整備の優先はやめ、運営(ソフト)を重視して欲しい。(1件)
- ・ 税収の状況から柔軟な見直しを行い、税金の無駄遣いをしないこと。(1件)
- ・ 舗装や敷石はできるだけ使わない。(1件)
- ・ 埋まっている不燃ごみなどを取り除き、土壌改良を行う必要がある。(1件)

《交通対策について》(計 7 件)

- ・ 便利な交通アクセスの工夫が必要である。(2件)
- ・ 渋滞を招かないため、パーク&ライドを導入してはどうか。(1件)
- ・ 臨海部の公園や施設と連携を図る交通計画が必要である。(1件)
- ・ 公園内の移動に馬車を導入し、集客力の向上も目指す。(1件)
- ・ 海の森で作るエネルギーを利用し、交通機関(燃料電池車など)に活用してはどうか。(1件)
- ・ 広い公園内で現在地を確認できるようにならないか。(1件)

(3) 計画の進め方について(計 13 件)

《計画設計に関して》(計 6 件)

- ・ 計画、設計段階から都民の参加・意見反映の機会を設けるべきである。(3件)
- ・ 知識・意欲のある専門家の参画を図り、構想づくりを進める。(1件)
- ・ 都職員が設計することにより、設計変更等に柔軟性を持たせると良い。(1件)
- ・ 大きな建設会社に設計を任せては、よくあるイメージのつまらない公園になる。(1件)

《統一的イメージづくりに関して》(計 2 件)

- ・ 周辺の観光・文化・スポーツ拠点の集積を活かし、連携を取りながらブランドを形成すべきである。(1件)
- ・ 公園名称は非常に重要であり、広く国民の声を反映すべきである。(1件)

《広報に関して》(計 4 件)

- ・ マスコミやテレビ、ホームページなどでのPRが足りないのではないか。(4件)

《事業スケジュールに関して》(計 1 件)

- ・ 段階整備により荒地をいつまでも残さぬよう、基盤部分は一斉に整備すべきではないか。(1件)

(4) 協働活動について(計 26 件)

《参加を希望する意見》(計 9 件)

- ・ 個人として、ぜひ協力・参加してみたい。(5件)
- ・ 活動団体のノウハウやネットワークを活かし、協力・参加してみたい。(4件)

《協働活動の内容について》(計 6 件)

- ・ ボランティアや市民団体等が活動できる様々な場を幅広く用意する。(3件)
- ・ 森や生態系の維持管理に参加できる場があると良い。(2件)
- ・ 一般の人が気軽に参加できるイベントを多くやってもらいたい。(1件)

《協働の体制について》(計 11 件)

- ・ 希望者を広く受け入れる態勢づくりが重要である。(1件)
- ・ 企業や団体が植林に参加できる場を設けたらどうか。(1件)
- ・ 「友の会」のような組織をつくり、都民への協力を呼びかけてはどうか。(1件)
- ・ 活動内容に応じた協働のかたちを具体化していく必要がある。(1件)
- ・ 効率優先を排除し、できるだけ手間隙をかけながら多くの世代、人々が自然を再生する場としてはどうか。(1件)
- ・ 協働をうまくコーディネートする組織・人材を当初から導入していく必要がある。(1件)
- ・ 意見を多く聞くのは良いが、うまく意見集約していく必要がある。(1件)
- ・ 権限を都から徐々にグループ連絡会へと移していくこと明記すると良い。(1件)
- ・ 都民が主体的にかかわってきてくれるための「楽しみながら創造が出来ること」を強調して欲しい。(1件)
- ・ 失業やホームレス対策として活用できないか。(1件)
- ・ 近県にも苗木栽培や植樹祭に参加してもらい、都市間交流を育むような森づくりを進めたらどうか。(1件)

(5) 管理運営について(計 16 件)

《管理運営費用等について》(計 5 件)

- ・ 維持管理費用を賄うためには、入場料をとっても良いのではないか。(3件)
- ・ 公園から利益を出し、整備費に充てるなどの方法を考えるべきである。(2件)

《管理運営上で配慮すべきこと》(計 11 件)

- ・ 利用者のモラルを啓蒙していく必要がある。(5 件)
- ・ 防犯対策に十分な配慮が必要である。(2 件)
- ・ 維持管理に際しては環境に配慮した資機材を使うべきである。(2 件)
- ・ 犯罪防止の観点から夜間は入場禁止とすべきである。(1 件)
- ・ 自然再生のためにボランティアのみが入場できる等の入場制限を行ってはどうか。(1 件)

(6) その他(計 5 件)

- ・ 新海面埋立地も森にしたい。(1 件)
- ・ 海の森の整備によって都内の公園面積は増えるので、長年未整備のままで都市計画制限を受けている公園区域を計画から外して欲しい。(1 件)
- ・ 「有明テニスの森公園」を拡張・充実すべく、周辺の未利用地を公園化して欲しい。(1 件)
- ・ 公共施設跡地を公園にと要望したが、既定の都市計画決定にないものは公園に出来ないと言われた。何故ここに公園がつけられるのか。(1 件)
- ・ 東京都にある全ての公園を一元化して欲しい。(1 件)

【e モニター意見】

(1) Q1 海の森(仮称)の利用について(計 259 件)

《利用のしかた》(計 220 件)

- ・ 散歩や散策をしたい。(38 件)
- ・ 森林浴や四季を楽しむなど、自然とふれあいたい。(24 件)
- ・ 家族や子供、友人等と楽しみたい。(22 件)
- ・ 動植物の観察や自然を活かした体験学習をしたい。(19 件)
- ・ イベントに参加(コンサート)したい。(13 件)
- ・ イベントに参加(その他)したい。(13 件)
- ・ のんびりと憩い、くつろぎたい。(12 件)
- ・ ピクニックやハイキングをしたい。(12 件)
- ・ バーベキューをしたい。(11 件)
- ・ ペット(犬等)と遊びたい。(5 件)
- ・ 釣りをしたい。(5 件)
- ・ 写真撮影やスケッチをしたい。(4 件)
- ・ サイクリングをしたい。(4 件)
- ・ キャンプをしたい。(3 件)
- ・ 花見をしたい。(3 件)
- ・ 遊びに行きたい。(3 件)
- ・ ジョギングやランニング・ウォーキングをしたい。(3 件)
- ・ 維持管理活動に参加したい。(2 件)
- ・ バトミントンをしたい。(2 件)
- ・ 吟行会をしたい。(2 件)
- ・ 運動・トレーニングをしたい。(2 件)
- ・ テマパークのようなエリアがあると良い。(2 件)
- ・ 潮干狩り・塩づくりをしたい。(2 件)
- ・ 宿泊施設を利用したい(青少年の自然観察や交流)。(1 件)
- ・ アウトドアスポーツをしたい。(1 件)
- ・ イチゴ狩りをしたい。(1 件)
- ・ 買い物や食事を楽しみたい。(1 件)
- ・ 各種競技会ができる公園として活用したい。(1 件)
- ・ ダイビングをしたい。(1 件)
- ・ デートスポットにしたい。(1 件)
- ・ テニスをしたい。(1 件)
- ・ プールで泳ぎたい。(1 件)
- ・ ボート遊びをしたい。(1 件)
- ・ 植物園があると良い。(1 件)
- ・ 星空観賞をしたい。(1 件)
- ・ 読書をしたい。(1 件)
- ・ 日の出や夕日の鑑賞をしたい。(1 件)

《利用する上での意見・要望》(計 39 件)

- ・ 便利な交通アクセスを確保して欲しい(船の発着場、海上タクシーを含む)。(8 件)
- ・ 自然の再生を重視し(ピオトープを含む) つくり過ぎないで欲しい。(7 件)
- ・ 様々な世代が楽しめる場として欲しい。(5 件)
- ・ 十分な駐車場を確保して欲しい。(3 件)
- ・ 自然を活かし、イベント等はやらない方が良い。(2 件)
- ・ 日本の原風景である里山や漁村を再現するような公園を望む。(1 件)
- ・ 小中学校の見学コースや体験学習の場があると良い。(1 件)

(次頁に続く)

(前頁の続き)

- ・ 首都大学等との連携による研究施設を設置したらどうか。(1件)
- ・ 気軽に使えるイベント会場等を設けて欲しい。(1件)
- ・ 子供は無料とする。(1件)
- ・ ごみ最終処分場であったことを解説する施設を作ってはどうか。(1件)
- ・ 雑多な施設は不要で、広場があれば良い。(1件)
- ・ 観音像のようなシンボリックなランドマークを設けてはどうか。(1件)
- ・ 船舶のみのアクセスとして場所の差別化を図る。(1件)
- ・ 治安に気を配って欲しい。(1件)
- ・ ルールある管理を行って欲しい(ペットの糞、老人・幼児とペットとのトラブル防止など)。(1件)
- ・ 入場制限をして静かな環境を保つと良い。(1件)
- ・ 常に沢山の利用があるように工夫すべきである。(1件)
- ・ 森と海の生態系がリンクしていることが学べるよう、公園と海をつないで海に藻場を作る。(1件)

(2) Q2 管理や育成について(計 164 件)

《協働の体制や手法について》(計 84 件)

- ・ 記念樹や里親制度(オーナー名表示)などで個人・企業等の参加を促す。(17件)
- ・ 学校の授業や子ども会の行事等で児童生徒の参加を図る。(9件)
- ・ 様々なNPOやグループのネットワークを活用する。(9件)
- ・ 広報やインターネット等で幅広くボランティアを公募する。(6件)
- ・ 協議会等を組織し、参加者の意見調整や連携を図りながら活動する。(5件)
- ・ 様々なイベントを企画し、参加の契機とする。(5件)
- ・ シルバー世代を人材として積極的に活用する。(5件)
- ・ 運営業務をNPOに委託する。(4件)
- ・ 専門家による指導体制を構築する。(4件)
- ・ 広く民間のアイデアを公募する。(3件)
- ・ 官民の得意分野を活かし、分担して運営にあたる。(3件)
- ・ セミナー等で指導者を育成し、認定する。(2件)
- ・ 専門知識のあるリーダーのもとグループを育成する。(2件)
- ・ 園芸実技の教育実習等の場として提供していく。(1件)
- ・ 協賛企業のイメージが高まる海の森のブランドを確立する。(1件)
- ・ 行政の関与は最小とし、自主性をできるだけ尊重する。(1件)
- ・ 特別区が分担する区画を決め、各区の自由にまかせる。(1件)
- ・ 個人で維持管理を担当できる区画を設ける。(1件)
- ・ 利用に際して参加・協力者を一般利用者より優遇する制度を設ける。(1件)
- ・ 協働組織の中に市民主体で課題の提言を行う機関を設ける。(1件)
- ・ 地域の組織や人材を活用する。(1件)
- ・ ルールを定め、参加者の自覚・マナーを促す。(1件)
- ・ 予算を付けて若い世代に自由に組み込んでもらう。(1件)

《協働する上での意見・要望》(計 62 件)

- ・ 個人が気軽に参加できる仕組みとして欲しい。(24件)
- ・ 特定の個人や団体に偏りのないよう、公平でオープンなしくみとする。(7件)
- ・ 都民の理解や参加意欲を高めるPRが必要である。(6件)
- ・ あらかじめ基本的な方向・プランを定める必要がある。(4件)
- ・ 企業の協賛を図る上で、企業PRが目立ちすぎないよう配慮が必要である。(3件)
- ・ 参加の意義や楽しみを実感できることが重要である。(3件)
- ・ 参加者・参加団体への交通費等の補助は必要である。(3件)
- ・ ボランティアであっても有償とする必要があるのではないかと。(2件)
- ・ モチベーション向上、達成感が味わえる場作り等コーディネート力が大事である。(1件)
- ・ 資金運営等を公正に評価するしくみが必要である。(1件)
- ・ 活動内容を公正に評価するしくみが必要である。(1件)
- ・ 協働ではなく、維持管理内容は公募すべきである。(1件)
- ・ 遠方参加者のための宿泊施設があると良い。(1件)
- ・ 環境への配慮が第一である。(1件)
- ・ 参加する上での安心感・信頼性を高める。(1件)
- ・ 定期的にかかわることが重要である。(1件)
- ・ 規制は最低限にとどめるのが望ましい。(1件)
- ・ 利便な交通を確保する必要がある。(1件)

《財源について》(計 18 件)

- ・ 企業から協賛金等を募る。(7件)
- ・ ある程度都の支出は必要である。(2件)
- ・ 入場料や施設利用料を管理費用にあてる。(3件)
- ・ 募金等で資金を集める。(2件)
- ・ NPOへの優遇税制や財政支援を行う。(1件)
- ・ 資金面をしっかりと支える必要がある。(1件)
- ・ 多様な参加形態の会員制度を設け会費を徴収する。(1件)
- ・ 店舗等を誘致しテナント料を活用する。(1件)

(3) Q3 キャッチコピーについて(計 160件)

- ・ 「海の森」で良い(4名)
- ・ 「都会のオアシス」(3名)
- ・ 「海に浮かぶ森」(2名)
- ・ 「海辺の森」(2名)
- ・ 「ウォーターアイランド」
- ・ 「エコオアシス」
- ・ 「エコサイクル・アイランド」
- ・ 「オーシャン・グローブ」
- ・ 「くつろぎの森」
- ・ 「グリーンアイランド」
- ・ 「クリーンランド」
- ・ 「シーサイドオアシス」
- ・ 「ネイチュア・ランド」
- ・ 「フォレストパークアイランド」
- ・ 「フォレスト東京ベイ」
- ・ 「フロートフォレスト」
- ・ 「やすらぎの森」
- ・ 「夢の島公園」
- ・ 「ランドマークフォレスト」
- ・ 「海つばめ」
- ・ 「海上緑地公園」
- ・ 「希望の森」
- ・ 「生命の森」
- ・ 「東京グリーン・アイランド」
- ・ 「東京シーサイド・ヴィレッジ」
- ・ 「東京シーパーク」
- ・ 「未来人間の森」
- ・ 「夢の島」
- ・ 「緑と海の広場」
- ・ 「東京フロンティアゲート」
- ・ 「東京ベイフロンティアの森」
- ・ 「東京湾フロンティア」
- ・ [自然に帰る]
- ・ 「"海の森"、小鳥さん、お魚さん、小動物さん、そして都民の皆さんもいらっしやい」
- ・ 「21世紀の海」
- ・ 「アイランドシャワー」
- ・ 「イチョウとハゼの共存」
- ・ 「かもめと遊ぶ"海の森"」
- ・ 「カモメと遊ぶ海の森公園」
- ・ 「グリーンがあふれる憩いの東京アイランド」
- ・ 「ここに行けば、お金をかけず一日気持ちよく遊べます。」
- ・ 「ここをリセットしたいときに訪れよう、心のオアシス、海の森、アクーリア・・・」
- ・ 「ゴミからの再生」
- ・ 「ゴミの山が、いま甦る、東京オアシス」
- ・ 「ごみの島からこんにちわ日の出から夕日まで」
- ・ 「すべての自然との共存」
- ・ 「都心のオアシス」
- ・ 「人魚姫に会える公園」
- ・ 「のんびりすごそう海の森のなかで」
- ・ 「私たちの『自然』」
- ・ 「安心と冒険の場所」
- ・ 「一見に如かず。人工でこんなに素晴らしい森ができました」
- ・ 「塩の香とともに森林浴にいこう!!」
- ・ 「海と森のふれあいパーク」
- ・ 「海に浮かぶみんなのオアシス」
- ・ 「海に浮かぶ楽園ー自然の森」
- ・ 「海に浮かぶ緑の楽園」
- ・ 「海に浮かぶ緑の丘陵」
- ・ 「海に浮かんだ東京のオアシス」
- ・ 「海のオアシス」
- ・ 「海のどんぐり拾ってみませんか？」
- ・ 「海の森が語る言葉が聴こえますか？」
- ・ 「海の森で森林浴、あなたをリフレッシュさせるスペースです」
- ・ 「海の中のオアシス」
- ・ 「海の風と森の風が心の中を吹き抜けていく」
- ・ 「海も森もある自然いっぱいの楽しい幸せの島に行こう！」
- ・ 「海上のジャングル」
- ・ 「海上の癒し森」
- ・ 「海風に触れたくなった時、訪れたい海のオアシス」

(次頁に続く)

(前頁の続き)

- ・ 「巨大都市東京の癒しの空間」
- ・ 「魚も鳥も人間も遊ぶ海の森」
- ・ 「喧騒や時間を忘れさせてくれるところ」
- ・ 「光化学スモッグをリフレッシュ」
- ・ 「江戸前のふるさと創生」
- ・ 「持続可能な島」
- ・ 「自然 よりも豊かな一海の森へ」
- ・ 「自然と触れあえる」
- ・ 「自然と人が共存する海の森」
- ・ 「自然と人が共存する海の森」
- ・ 「自然と仲良く生きよう」
- ・ 「自然と遊ぼう」
- ・ 「自然にかえろう『海の中の森』」
- ・ 「自然にかえろう『東京港の森』」
- ・ 「自然に行水、緑がテンコ盛り都民のオアシス」
- ・ 「自然豊かな未来の森のあるべき姿の提案」
- ・ 「心の癒しを海の森と共に」
- ・ 「新しいライフスタイル」
- ・ 「新しい東京は海の森から！」
- ・ 「森から海へ」
- ・ 「森が人と人を結びつける」
- ・ 「森の海が奏でる音楽が聴こえますか？」
- ・ 「森の灯台、海鳥や動物や人間たちの休憩所」
- ・ 「人・自然・ふれあい」
- ・ 「人と生きものと森と海とのふれあい」
- ・ 「人類の古里、自然との同化」
- ・ 「星と月と海のアイランド！ TOKYO」
- ・ 「青と緑の楽園」
- ・ 「大都会のオアシス 海の森」
- ・ 「大都会の中の心のオアシス」
- ・ 「大東京の森林浴」
- ・ 「虫も魚も友達だ」
- ・ 「潮と緑と人が共生する森」
- ・ 「潮の香りにつつまれた緑のオアシス」
- ・ 「潮の香りの憩いの森」
- ・ 「潮風そよぐ東京ウォーターフロントの森」
- ・ 「潮風と水のいこいの場所」
- ・ 「潮風に見える公園」
- ・ 「潮風を感じる森グリーンアイランド」
- ・ 「潮風を浴びて癒しの海中森林公園」
- ・ 「天然マイナスイオンでリフレッシュ！」
- ・ 「都会の海の緑の島」
- ・ 「都会の近くの新しい感覚の避暑地」
- ・ 「都市と都民が集う場所、森の海」
- ・ 「都心に近い未来型の皆で育てる森」
- ・ 「都民が育てる『海に囲まれた緑ゆたかな公園』」
- ・ 「都民が作る江戸前の森」
- ・ 「都民のオアシス」
- ・ 「東京から生まれたリサイクルの島」
- ・ 「東京のセントラルパーク」
- ・ 「東京のふるさと」
- ・ 「東京の海」
- ・ 「東京の新、憩いの森」
- ・ 「東京の深呼吸空間・・・トーキョー・シーフォリスト」
- ・ 「東京ブルー&グリーン」
- ・ 「東京みどりとみずの夢の島」
- ・ 「東京みどりと水のネットワーク」
- ・ 「東京樹海」
- ・ 「東京湾で森林浴をしよう」
- ・ 「東京湾に浮かぶ海の森公園」
- ・ 「東京湾潮の香りのオアシス」
- ・ 「風と草原そして森と海」
- ・ 「風の香る慰やしの森」
- ・ 「未来の環境問題を考えるきつかけとなる海の森」
- ・ 「未来の遊び場」
- ・ 「命を育む未来の島」
- ・ 「緑いっぱい、海にうかぶ自然公園」
- ・ 「緑と青の楽園」
- ・ 「湾に浮かぶ牧場」
- ・ 「都民の憩いの場水、緑に囲まれたアイランド」

(次頁に続く)

(前頁の続き)

- ・ 自然の豊かさを強調する(2名)
- ・ 自然保全や自然との共生の重要性を強調する(2名)
- ・ 子供にも分かりやすく、身近に感じられるように(2名)
- ・ 「無人島」のイメージで
- ・ 「夢の島」との違いを表す
- ・ 「夢」を使ったネーミング
- ・ お台場などと一線を引き古風なネーミングとする。
- ・ 爽やかさ、緑、海、風などを連想させるもの。
- ・ 若々しいイメージでインパクトを強く
- ・ 海の森にふさわしいもの。
- ・ 最終処分場の再生させたことを表し、ごみ・環境問題への展望を示す
- ・ 「自然の素晴らしさに触れ、その大切さを痛感し、一人からでもできる地球を守る活動を始められるきっかけを作る」
- ・ 「大自然の恵みを楽しんで元気な生活が学習出来る、最も新しい海と森の島が東京に誕生した。この島では、人類の生活の廃棄物が灰化されて自然に戻り、そこに再び生物の種が宿って人類の生命を育成する。この有意義なプロセスとサイクルをこの公園で楽しく体験してみよう。」
- ・ 「夢みる海の森。たくさんのひとたちの夢が詰まっています。海に浮かびながらゆったりと森ははぐくみ、こころいやします。」

(4) Q4 構想に関する感想(計 175件)

《賛同する意見》(計 93件)

- ・ とても良い構想だと思う。(52件)
- ・ 都民の参加・協働による公園づくりに賛同し、期待している。(11件)
- ・ 計画が着実に進むことを望む。(10件)
- ・ 森や海の自然とふれあえる場として期待したい。(9件)
- ・ 環境問題の取り組みとして緑を増やすことは重要である。(4件)
- ・ 都民の交流・ふれあいの場として期待したい。(3件)
- ・ 自然の再生や生態系に配慮した森づくりに期待する。(2件)
- ・ 海に臨む都市としては海浜公園が少なく、是非推進して欲しい。(1件)
- ・ 環境問題を考え、体験・学習できる施設となることを期待している。(1件)

《否定的な意見》(計 5件)

- ・ 財政状況を踏まえると、もっと優先すべきものがある。(4件)
- ・ ごみの再埋設の可能性も踏まえ、そのままが良い。(1件)

《構想内容への意見・要望》(計 77件)

- ・ 自然の再生を重視し、人工的な施設をあまりつくらなくて欲しい。(8件)
- ・ 利便な交通アクセスを確保する必要がある。(7件)
- ・ できるだけ税金を費やさない整備・管理が必要である。(7件)
- ・ 地震等への安全性に十分な配慮が必要である。(4件)
- ・ ごみの安全性への配慮が必要である。(3件)
- ・ 他公園との差別化する魅力づくりが必要ではないか。(3件)
- ・ 都民の理解・賛同が得られるよう、きめ細かな情報公開・PRが必要である。(3件)
- ・ 海を活かした場や施設に乏しいのではないか。(2件)
- ・ 日本を代表する公園としての特色が必要である。(2件)
- ・ 都民の幅広い参加が可能なかたちで進めて欲しい。(2件)
- ・ 地中(埋立ごみ)の展示など、ごみ問題を再認識できる施設があると良い。(2件)
- ・ もっと緑豊かで、うるおいある場所として欲しい。(2件)
- ・ アウトレットモールを導入すると良い。(1件)
- ・ アスレチック広場があると良い。(1件)
- ・ あまり施設をつくらず、利用者の自由が活かされる公園の方が良い。(1件)
- ・ 自然再生というより温暖化防止に役立つという表現の方がわかりやすい。(1件)
- ・ 参加する形の森づくり、海づくりと新しいかわり、体験できるようならおもしろい。(1件)
- ・ 公園には活気よりもくつろぎを求めたい。(1件)
- ・ 構想の当初より都民意見を反映するべきではないか。(1件)
- ・ ごみの島の再生には長い期間を要するという皮肉を伝えて欲しい。(1件)
- ・ 環境教育でごみ問題を再認識することが重要である。(1件)
- ・ 今後のごみ処理体制を踏まえた長期的な計画を望みたい。(1件)
- ・ リユース・リデュースの時代の中で「リサイクル」だけでよいか。(1件)
- ・ 市民主体で市民参加の方策を考える。(1件)
- ・ ジャンглのような公園にしてはどうか。(1件)
- ・ 周辺道路等による大気汚染に配慮して欲しい。(1件)
- ・ 白い砂浜をつくり空からのランドマークとしてはどうか。(1件)
- ・ 水上交通をうまく活用すると良い。(1件)
- ・ 水族館等があると良い。(1件)
- ・ 青少年の参加が図れるよう学校教育と連携すると良い。(1件)
- ・ 整備スケジュールを明確化して欲しい。(1件)

(次頁に続く)

(前頁の続き)

- ・ 船舶の繫留場をつくると良い(不法繫留対策)。(1件)
- ・ 長期計画であり、時流に柔軟に対応する必要がある。(1件)
- ・ 長期計画であり、組織づくりや人材の選定が重要である。(1件)
- ・ 釣り体験とマナーを学ぶ施設をつくると良い。(1件)
- ・ 適正な利用マナーが保たれるよう管理を厳重にしてほしい。(1件)
- ・ 途中で頓挫することのないよう10年程の事業期間とするべきではないか。(1件)
- ・ 農業生産団地として整備してはどうか。(1件)
- ・ 人がいない場所にならないように気を付けて欲しい。(1件)
- ・ 風力発電施設を導入してはどうか。(1件)
- ・ 暴走族のたまり場としないようにして欲しい。(1件)
- ・ 民間業者の介入で本来の意義を失わないようにしてほしい、協働でやらないで欲しい。(1件)
- ・ 役人的発想をやめ、子どもの視点から発想すべきである。(1件)
- ・ リサイクル型公園としての明確な姿が分からない。(1件)

《その他》(計 1 件)

- ・ ビル街などにも緑を増やしていくべきである。(1件)

「中央防波堤内側 海の森（仮称）」構想 諮問文



15港臨公第126号

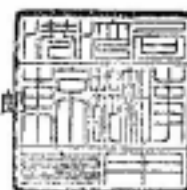
東京都港湾審議会

東京都海上公園条例（昭和50年東京都条例第107号）

第6条第3項の規定に基づき、下記事項について諮問する。

平成15年11月6日

東京都知事 石原 慎太郎



記

1 中央防波堤内側海の森（仮称）構想

（別紙「諮問事項の説明」のとおり）

諮問事項の説明

1 諮問の根拠

東京都海上公園条例第6条第3項

2 諮問事項

○中央防波堤内側海の森（仮称）構想

（1）海上公園計画（区域、面積、内容等）について

（2）新しい事業の進め方について

3 答申時期

平成17年3月（予定）

4 諮問の背景

（1）中央防波堤内側海の森（仮称）整備について、都民や企業、NPO等から要望や参加・協力の申し出が多数寄せられており、早期着手が強く望まれている。

（2）都市再生プロジェクト第3次決定（平成13年12月 都市再生本部）「臨海部における緑の拠点形成」との整合性を図り、都としてもその先導的事例として早期に取り組む必要がある。

（3）「東京港第7次改訂港湾計画の基本方針（中間報告）」や「東京らしいみどりをつくる新戦略」（東京都都市計画審議会答申 平成15年10月）等における「水と緑のネットワーク」、「海辺の回廊」の拠点として、その実現化を図る必要がある。

（4）平成14年4月に臨海トンネルが開通し、中央防波堤内側地区（西側）への一般車両の立ち入りが可能になった。さらに平成22年度に東京港臨海道路の完成が予定されるなど、当地域へのアクセスの改善の見通しがたつようになった。

5 構想策定の基本方針

（1）自然再生の取り組みを進める

（2）都民、企業等との協働による新しい事業の進め方を構築する

（3）活気ある個性的な公園づくりを進める

6 検討の視点

(主に海上公園計画に関して)

(1) 自然再生の取り組み方

東京湾臨海部の広域的な水と緑のネットワーク及び海辺の回廊の拠点として、多様な生物の生息域の確保・ヒートアイランド現象の緩和への寄与・自然とのふれあいの場の拡大などを図る必要がある。

また、ごみと建設発生土により埋め立てられた土地であること、潮風の影響が大きいことなどを踏まえ、特殊な環境下における緑化手法を検討する必要がある。

(2) 東京の新たなシンボルの形成

東京港の中心に位置し、東京の海と空の玄関口であるとともに、東京23区内の最大級の公園として、東京のランドマークとなるようなシンボル性が求められている。

(3) 活気ある個性的な公園づくりの方策

鉄道などの公共交通機関から遠く、利用者が足を運びにくい立地である。臨海部の他の公園との機能分担を図り、個性的な魅力ある公園として活性化することが求められる。さらにこれは、自然再生の取り組みと調和したものである必要がある。

(主に新しい事業の進め方に関して)

(1) 都民、企業等との協働による事業の進め方

都民や企業の意識変化が進んでおり、公園の整備や管理に対する参加の意欲が高まっている。そのため、広い範囲の都民や企業等との協働による持続的な公園づくりと、それを支えるしくみを構築する必要がある。

(2) 長期にわたる段階的な整備の進め方

整備が長期間にわたることから、後年度整備予定の区域を有効に活用することが求められる。レクリエーション用地として民間に有効に活用され、その後の公園整備に資するような方策を検討する必要がある。

東京都港湾審議会委員名簿

会長 会長代理

分野	役 職 等	氏名	摘 要
学識経 験を有 する者	社団法人経済同友会 副代表幹事・専務理事	渡邊 正太郎	
	三菱鉱石輸送株式会社 専務取締役	上東野 治男	
	社団法人日本港湾協会 理事	川嶋 康宏	平成 16 年 11 月から
	社団法人日本港湾協会 理事	坂井 順行	平成 16 年 10 月まで
	富士常葉大学環境防災学部 教授	重川 希志依	
	千葉大学園芸学部 教授	田代 順孝	
	東京農工大学大学院 教授	福嶋 司	
	青山学院大学経営学部 教授	三村 優美子	
	江戸川大学社会学部 教授	恵 小百合	
	政策研究大学院大学 教授	森地 茂	
	前・財団法人東京動物園協会 常任理事	山田 元一	
	港 湾・公 海園者 上利 用者	社団法人東京港運協会 会長	鶴岡 元秀
東京倉庫協会 会長		田川 英明	平成 16 年 6 月から
東京倉庫協会 会長		伊藤 幸治	平成 16 年 5 月まで
東京港定航船主会 会長		三澤 豊	平成 16 年 6 月から
東京港定航船主会 会長		大野 茂樹	平成 16 年 6 月まで
東京港定航船主会 会長		犬塚 研哉	平成 16 年 3 月まで
東京湾海難防止協会 東京支部長		村田 貴	
東京港湾労働組合協議会 副議長		都澤 秀征	
全日本海員組合関東地方 支部長		中本 槇夫	平成 16 年 12 月から
全日本海員組合関東地方 支部長		藤澤 洋二	平成 16 年 11 月まで
東京都釣魚連合会 会長		吉田 米豊	
都民公募		岩瀬 俊介	平成 16 年 11 月から
都民公募		南 博	平成 16 年 10 月まで
都民公募		山本 順子	平成 16 年 11 月から
都民公募	木川 るり子	平成 16 年 10 月まで	
港 湾 区 域に隣 接する 特別区 の区長	中央区長	矢田 美英	
	港区長	武井 雅昭	平成 16 年 6 月から
	港区長	原田 敬美	平成 16 年 6 月まで
	江東区長	室橋 昭	
	品川区長	高橋 久二	
	大田区長	西野 善雄	
	江戸川区長	多田 正見	
東 京 都 議 会 議 員	東京都議会議員	立石 晴康	
	東京都議会議員	大山 均	
	東京都議会議員	川島 忠一	平成 16 年 10 月から
	東京都議会議員	佐藤 裕彦	平成 16 年 10 月まで
	東京都議会議員	柿沢 未途	平成 16 年 10 月から
	東京都議会議員	藤井 一	平成 16 年 10 月まで
	東京都議会議員	木内 良明	平成 16 年 10 月から
	東京都議会議員	和田 宗春	平成 16 年 10 月まで
	東京都議会議員	丸茂 勇夫	
	東京都議会議員	大西 由紀子	
関 係 行 政の機 関の職 員	東京税関長	藤原 啓司	平成 16 年 7 月から
	東京税関長	森信 茂樹	平成 16 年 7 月まで
	関東地方整備局長	渡辺 和足	
	関東運輸局次長	藤田 武彦	平成 16 年 7 月から
	関東運輸局次長	野竹 和夫	平成 16 年 6 月まで
	東京海上保安部長	佐藤 清志	
	警視庁交通部長	関根 榮治	平成 16 年 8 月から
	警視庁交通部長	渡邊 晃	平成 16 年 8 月まで
臨 時 (部 会) 委 員	社団法人経済同友会 常務理事	安生 徹	
	社団法人日本環境教育フォーラム 専務理事	岡島 成行	
	明治大学農学部 教授	輿水 肇	
	特定非営利活動法人NPObirth 事務局長	佐藤 留美	
	前・財団法人日本野鳥の会 自然アカデミー担当	下重 喜代	
日本大学理工学部 教授	横内 憲久		

東京都港湾審議会 海の森（仮称）検討部会委員名簿

部会長

部会長代理

臨時委員

委員氏名	役職等
安生 徹	社団法人経済同友会 常務理事
岡島 成行	社団法人日本環境教育フォーラム 専務理事
輿水 肇	明治大学農学部 教授
佐藤 留美	特定非営利活動法人NPO birth 事務局長
下重 喜代	前・財団法人日本野鳥の会 自然アカデミー担当
田代 順孝	千葉大学園芸学部 教授
福島 司	東京農工大学大学院 教授
恵 小百合	江戸川大学社会学部 教授
山田 元一	前・財団法人東京動物園協会 常任理事
横内 憲久	日本大学理工学部 教授
吉田 米豊	東京都釣魚連合会 会長

「中央防波堤内側 海の森（仮称）」構想策定の審議経過

会議名	開催日	審議内容
第71回東京都港湾審議会	平成15年 11月6日	・海の森（仮称）構想の策定について諮問
第1回検討部会	12月25日	・現地視察・現地条件の把握
第2回検討部会	平成16年 2月6日	・公園計画の方向性の検討
第3回検討部会	3月26日	・協働参加のしくみの検討
第4回検討部会	6月30日	・公園のテーマ、ゾーニングの検討
第5回検討部会	7月23日	・協働活動組織の育成と運営、賛同を得るための方策の検討 ・公園のテーマ、ゾーニングの検討
第6回検討部会	10月26日	・「中間のまとめ」報告（案）の検討
第73回東京都港湾審議会	11月24日	・「中間のまとめ」（案）の審議
第7回検討部会	平成17年 1月12日	・都民意見の検討
第8回検討部会	1月28日	・「答申」報告（案）の検討
第74回東京都港湾審議会	2月24日	・「答申」（案）の審議 ・「中央防波堤内側 海の森（仮称）」構想を答申